

令和7年度 富山高等学校アクションプラン-5-		
重点項目	探究活動の充実	
重点課題	探究的学習の深化と更なる進化	
現 状	本校には従来どおりの生徒の探究心に基づき教科・科目における理解をより深めることを目的に行う純粋な学問追究型の探究科学科の課題研究活動があり、その上、教科等横断的で地域課題や企業課題に取り組む普通科の探究活動が始まり、2つの流れができたかのように思える。しかし、どちらの活動もその指導において必要とされるのは、生徒の知的好奇心に基づき、「対話」と「協働」的な活動により「創造性」が刺激され、知識や情報を再構成して「新たな価値」へと繋ぐ力を育む教育課程である。	
達成目標	①「対話」と「協働」的な学びにより深められる「創造性」	②「考えるための技法」に関して、外部連携などによる新たな手法の考察と改善
	※单元ごと、及び成果発表後の自己評価「富山高校で育む10の力」ルーブリックを活用し、「対話」と「協働」のルーブリック評価を1年生で平均値が3.0、2年生で平均値が3.3を目指す(最高値4)。	※「考えるための技法」に関して、探究科学科担当者は、各学期に1回以上考察し改善を図る。普通科担当者は、関係機関などと連携を1回以上図る。
方 策	1. 探究的な学びが自己の進路や社会活動に深く関わることを理解させると共に、他者との「対話」や「協働」によりその学びがより深まることを実感できるように指導を計画する。 2. 「探究基礎Ⅰ」「探究基礎Ⅱ」「理数探究」「総合的な探究の時間」及び「未来〇学」の指導内容・指導方法を十分研究し、授業担当者間で共通理解と綿密な連携を計りながら実施する。 3. 情報機器を適切に操作する技能を習得させ、取得した情報を扱うための「情報倫理」や探究的な活動を行う上での「研究倫理」を理解させる。 4. 指導に「考えるための技法」が取り入れられているか、担当者間で共有できる新たに効果的な技法がないかなど学期毎に確認する。	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)